

(仮称) 埼玉中部資源循環センター整備事業環境影響評価準備書説明会 議事録

日時 平成30年9月4日(火)  
場所 北本市 西部公民館会議室  
会議時間 午後 2時00分から  
午後 3時27分まで  
参加人数 3名  
顛末

司会 (大澤主幹)	1 開会
根岸事務局長	2 あいさつ
司会	出席者紹介
事務局	3 (仮称) 埼玉中部資源循環センター整備事業環境影響評価準備書説明会 (1) 事業の概要について (2) 環境影響評価手続きの概要について 資料をもとに説明。 (3) 環境影響評価準備書について 資料をもとに説明。
中日本建設コンサルタント(株)	4 質疑応答
質問者 A	鴻巣行田北本環境資源組合の計画している新施設では、現在の分別で不燃プラスチックとしている容器包装以外のプラスチックを燃やす計画としているのでダイオキシン類の数値が高くなっている。埼玉中部資源循環組合の環境影響評価予測でダイオキシン類の予測数値が低いのは現在の分別を変えず不燃プラスチックを燃やさないからなのか。中部環境センターの処理水のダイオキシン類の濃度がかなり低い。新施設から発生する処理水のダイオキシン類の濃度を知りたい。
事務局	基本的な考え方として、プラスチックは燃やさずに資源化する。その上で資源化できないプラスチックは焼却処理する計画である。処理水の濃度についても現施設と同等以下になると想定される。
質問者 A	中部環境センターの分別でいう不燃物にプラスチック類が含まれ、民間に処理を委託し固形燃料化している。新施設では不燃ごみを受け入れてしまうのか。
事務局	新施設の受入基準は可燃ごみと粗大ごみであり不燃ごみは受け入れない。粗大ごみ等に含まれ、資源化できないプラスチック類は焼却処理することになる。
質問者 A	その際の焼却処理温度は1000℃以上か。
事務局	法令基準に則り850℃以上の燃焼温度を2秒以上確保して処理をする。

質問者 B	<p>(3) 環境影響評価準備書 P15 のダイオキシン類の予測は、ダイオキシン類の濃度が高くなる条件を想定した予測ということで良いか。</p>
中日本建設コンサルタント(株)	<p>ダイオキシン類の濃度が高くなる条件のみを抽出したものではなく、年間を通して1時間ごとに観測した気象状況を利用して排ガス濃度や排ガス量等を年間の平均値として算出したもの。(3) 環境影響評価準備書では一般的な気象条件のうち最もダイオキシン類の濃度が高くなった条件のみをピックアップしたが準備書では全て記載している。</p>
質問者 B	<p>年平均値で算出したのでは、ダイオキシン類の濃度が最大になっている気象条件をおしなべて計算してしまっているのではないか。年平均で算出した風向きに、ダイオキシン類の濃度が高くなる気象条件の組み合わせは実際に起こり得るのか。</p>
中日本建設コンサルタント(株)	<p>気象は毎日変わるものなので全く同じにはならない。現地調査の結果を熊谷気象台の観測結果と照らし合わせて整合性を検証、確認した上で予測している。</p>
質問者 B	<p>季節ごとに気象条件は異なると思うが、季節ごとの予測は行っていないのか。</p>
中日本建設コンサルタント(株)	<p>年平均値で算出するとお示した予測となる。ダイオキシン類の濃度が高くなる気象条件は環境影響評価準備書 9. 1-98 でお示している。この数値を基に予測をしている。予測の仕方は埼玉県環境影響評価技術指針に則り作成している。</p>
質問者 B	<p>この結果を受けて北本市には、最大でどの程度ダイオキシン類の濃度が高くなるのか。</p>
中日本建設コンサルタント(株)	<p>ダイオキシン類の濃度が最大となる着地地点の数値が <math>0.000200 \text{ pg-TEQ/m}^3</math> であり、その地点を中心に10分の1までを示している。環境基準値が <math>0.6 \text{ pg-TEQ/m}^3</math> であり、ダイオキシン類の濃度が最大となる着地地点の数値もそれより大幅に小さな値となっている。</p>
質問者 A	<p>新施設は、何炉になり、年間何日間稼働する予定なのか。温室効果ガスの排出をどのように考えているか。新施設での処理水のダイオキシン濃度はどのくらいになるのか。</p>
事務局	<p><math>114 \text{ t/日}</math> の規模で2炉の計画である。炉の稼働日数は年間280日の計画であり、稼働日数内で1炉運転もしくは2炉運転の日がある。</p>
中日本建設コンサルタント(株)	<p>温室効果ガスについて、環境影響評価準備書 9. 17-11 でお示している。供用後の施設の稼働に伴う温室効果ガス排出量は <math>19,135 \text{ t-CO}_2/\text{年}</math> であり、そこから売電に相当する温室効果ガス削減量 <math>8,521 \text{ t-CO}_2/\text{年}</math> を差引き結果的に約 <math>11,000 \text{ t-CO}_2/\text{年}</math> が温室効果ガス排出量となる。ここでいう売電に相当する温室効果ガス削減量とは、施設稼働による発電分が現状発電によって発生する温室効果ガスの抑制に寄与しているという考え方をしているため差引いている。</p>
事務局	<p>排水水について、プラント系排水は全て場内処理し再利用する計画で場外に排出はされないの有害項目の予測は行っていない。中部環境センターと同程度の施設規模、処理対象ごみであることを考えると同程度以下の水質であると考えられる。</p>

質問者 A	再確認だが、現在の中部環境センター同様に不燃物は受け入れないので不燃物として出されたプラスチック類は受け入れないという認識で間違っていないか。
事務局	お見込みのとおりである。
質問者 B	重要種としてツチガエルが 1 固体確認されているが、ツチガエルは外来種のヌマガエルと非常によく似ている。確認した個体がツチガエルとした特徴等があれば教えてほしい。ツチガエルはとても貴重な固体であると思うが標本等にして残しているか。
中日本建設コンサルタント(株)	現地調査では個体の確認後逃がすので保管はしていない。生物の調査班に再度確認する。
質問者 A	景観の評価で現有する中部環境センターと新施設が記載されている。中部環境保全組合と地元は和解条項があるが地元の反対等はあるのか。
事務局	ご指摘のとおり、中部環境センターの隣接地が建設予定地となっている。中部環境保全組合と地元で昭和 61 年 2 月にごみ処理施設を新設、増築しないという和解がされている。このことは組合としても重要なことと認識している。地元からは新施設をつくるのであれば地域づくりも考えた上で施設整備をしてほしいという趣旨の要望書の提出を受けている。その後、平成 26 年の 3 月 26 日に建設予定地の決定をさせていただいた。建設予定地の地権者や近隣約 400 世帯を全て回らせていただいて、また地元説明会等を開催させていただきながら事業を進めている。しかしながら、少数であるが和解があることで反対されている方がいることも事実である。組合の解釈としては、和解は和解を結んだ当事者間の約束事であり法的拘束力はないと考えているが、それをもって一方的に事業を進めるのではなく、地元で事業説明会等を行いながら多くの方にご協力を頂きたいという姿勢で事業を進めている。
司会	5 閉会のあいさつ
	— 以上 —